

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	岡山市立第二藤田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	21
児童数	57	55	60	59	61	70	5	367	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、自ら考え、心豊かに生きようとする子どもの育成  
～ 数学的な見方・考え方を育てる授業づくりをめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年	全学年
教科	算数
選択した理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育内容とその系統性が明確である。</li> <li>・個人差が大きい。</li> <li>・知識や技能に関しては達成度を計測しやすい。</li> <li>・論理的に思考する場面を設定しやすい。</li> </ul>

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「自ら学び、自ら考え、心豊かに生きようとする子どもの育成 ～一人一人に応じたきめ細かな指導の工夫～」</p> <p>研究の見通し（仮説） 楽しさと充実感のある算数の授業をめざし、個人差に対応した指導法や指導形態の工夫、指導を効果的にするための評価等についての実践研究をすすめることが、一人一人の基礎学力の向上につながるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導法（課題別授業あるいは習熟度別コース指導、個別指導）の工夫</li> <li>・問題解決的な場面を授業の中に設定し、思考を深めていくために有効な算数的活動を取り入れる。</li> <li>・評価に関して・・・学習の様子へのふりかえり、到達度のチェック、配慮を要する児童への働きかけ、学期末テストの分析、意識の実態調査</li> <li>・授業評価の視点・・・算数科授業評価の視点を設け、日々の授業を見直し改善していく手がかりとした。</li> </ul>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「自ら学び、自ら考え、心豊かに生きようとする子どもの育成 ～ 数学的な見方・考え方を育てる授業づくりをめざして～」</p> <p>研究の見通し 既習の知識・技能を活用しながら問題を解決していく過程を大切にしながら授業を構成し、「授業研究」を深めていくことで授業の質が高まり、子どもたちの数学的な見方や考え方を育てることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 「数学的な見方・考え方」を身につけることは、獲得した知識や技能をより確かで一般的なものにするなど、数学的なよさや価値を認める能力を育てることになる。その実現のためには、授業において、これまでの知識を活用し新たな知的発見をとめないながら課題を解決していく授業づく</p>
--------	--

りが不可欠であろう。

そこで、今年度は「授業研究」を中核に実践研究をすすめた。本校では「授業研究」の視点として教育内容、教材（教材の内容や教材の選択・開発を視野に入れた）の研究、授業分析（検討結果を新たな授業づくりに活かす）を含みこんだ一連のものにとらえ、質の高い授業づくりを進める。

「数学的な見方・考え方を育てる授業づくり」を実現するために以下の3点に留意して実践をすすめた。

- |   |                 |
|---|-----------------|
| 1 | 新たな知的発見を促す授業づくり |
| 2 | 学習評価の明確化        |
| 3 | 事実に即した授業分析      |

#### 1 新たな知的発見を促す授業づくり

- (1) その単元や授業は「どのような数学的な見方や考え方」を育てなければならぬのかを具体化する。
- (2) 既習の知識を活用しながら発見をともなう追求過程に有効な教材や操作と思考を融合させた質の高い算数的活動を選択・開発する。
- (3) よりよい見方・考え方を求め話し合いが深まるような働きかけを工夫する。

#### 2 学習評価の明確化

学習評価は、目標とそれとともなって用意された教育内容・教材とその構成、具体的な働きかけの適否を検証し、子どもの学び方を確認しながら指導・実践へフィードバックさせることがその最も重要な機能である。「評価は教える側の問題に帰する」という原点に立ち返って評価と指導の一体化をめざした授業研究を行った。

子どもの学びという観点から見ると、学習結果の評価とともに学習過程において新たな知的発見（わかる・できる喜び）を保障できているかどうかを評価する必要がある。そのために一時間の授業では観点をしばって評価し目標達成のための働きかけの方法を考えることにした。達成度のはかりにくい「数学的な見方・考え方」の評価に関しては、問題解決の過程における子どもの考えを「記述」させることも大切に考えた。

#### 3 事実に即した授業分析

授業は、①学習者・②教授行為（発問・指示・板書・指名・机間指導など）③教育内容・④教材という要素が複雑に絡み合って構造化された営みである。そこで、これら4つのレベルを視野に入れ、授業の事実に即した分析を行った。「その授業の『何が』問題だったのか、有効だったのか」を地道に明らかにしていくことが、教授行為の見直しや新たに有意義な教材の開発につながると考えたからである。

その具体的な方法として「ストップモーション方式による授業検討会」を採用入れた。校内の全体研修や部内研修で公開授業後に実施した。授業ビデオの再生を「ここは」という場面で一時停止させ、先の4つのレベルの適否や意味、解釈等を集団的に議論してよりよい授業づくりをめざした。

平成  
16  
年度

#### テーマ

「自ら学び、自ら考え、心豊かに生きようとする子どもの育成  
～数学的な見方・考え方を育てる授業づくりをめざして～（予定）」

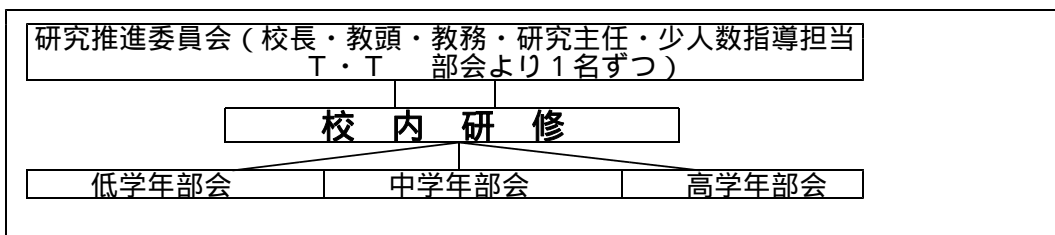
#### 研究の見通し

- 1 既習の知識・技能をしっかりと習熟させることで、それらを活用する能力が高まり、数学的な見方・考え方をより確かに育てることができるであろう。
- 2 「教える価値は何か」という教育内容の研究を深めることにより質の高い楽しい授業（教材・教授行為・学習者）を構成することができるであろう。

#### 研究の内容・方法

- 1 基礎・基本の学習の時間を確保し、既習の知識や技能の確実な習得をめざし、それらを見方・考え方と結合した授業づくり
- 2 今年度の成果と課題をふまえながら、授業研究をさらに深める。授業分析・授業プラン集の作成・教育内容の研究

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

子 ども	教 師
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習事項を使って考えようとする姿勢は身についてきた。</li> <li>・ 見通しを持って課題を解決しようとする子どもが増えつつある。</li> <li>・ 思考の足跡を文章や図で表現することができた。</li> <li>・ 自分の考えを根拠を持って説明することができるようになってきた。</li> <li>・ 算数科以外でも話し合いの大切さを意識するようになってきた。</li> <li>・ TT, 少人数という指導形態を活用し、知識・技能の習熟という点では、ある一定の成果が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思考面に研究の視点が絞られていたので、「どこで何を考えさせるか」が明確になった。</li> <li>・ ストップモーション授業検討会で授業の事実即した有意義な反省ができ、授業づくりで大切なことがらを共有することができた。</li> <li>・ TT, 少人数という指導形態を活用し知識・技能の習熟という点では、ある一定の成果が見られた。</li> <li>・ 以前より内容や教材を深く研究し授業にのぞむようになった。</li> </ul>

2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知識・技能が十分定着しておらず、思考する場面で既習事項を活用しきれない場面が多く見られた。学習内容を忘れていることも多く、反復練習による基礎基本の習熟を図る必要性を感じた。</li> <li>・ 根拠をもって自分の考えを発表することはできるようになったものの、互いに考えすりあわせ、深めていく表現力はまだ十分とは言えない。</li> <li>・ 学習したことを一般化し、応用させる力がまだ不十分である。</li> <li>・ 思考をささえる言語の力を国語科を軸に全教科・領域で育てていく必要がある。</li> <li>・ 新たな発見をともなう楽しい授業を構成するために、さらに授業研究を積み重ね、有効な教材を開発していきたい。</li> <li>・ 客観的なデータとして表しにくい数学的な見方・考え方の育成をどのように評価していくかが課題である。今年度は、おもに授業そのものの検証で（授業分析）明らかになる学習者の到達状況やポートフォリオ等でその成果や課題を抽出した。</li> <li>・ 単元を見通した効果的な習熟度別指導のあり方をさらに追求していく必要がある。</li> </ul>
---

学力等把握のための学校としての取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学期末テストの分析</li> <li>・ 意識調査</li> <li>・ 授業分析による質的評価</li> </ul>
--

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ H15年 8月 8日 講演会「確かな学力をのばす算数指導」実施  
講師 楠 博文先生
- ・ H15年10月29日 学力向上フロンティア授業研究会実施
- ・ H16年 2月19日 講演会「算数教育の価値について」実施予定  
講師 高杉 早苗先生
- ・ 学力向上フロンティア授業研究会実施予定  
日時 H16年11月2日(火)  
場所 岡山市立第二藤田小学校  
テーマ 自ら学び,自ら考え,心豊かに生きようとする子どもの育成  
~数学的な見方・考え方を育てる授業づくりをめざして~
- ・ HPアドレス <http://www.fujita2-e.okayama2.schoolnet.gr.jp/>  
(2月末更新予定)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無